



まちづくりの新たな胎動をいち早くキャッチしてご紹介する  
新シリーズ「まちづくり最前線」。

第1回は「子どもの居場所づくり」です。

リポーター 子育て支援課 山本 健太

## まちづくり 最前線



子どもたちがトム・ソーヤーになれる、  
そんな空間がつくられたら――。

### THEセツルメント



会長 石坂大樹さん(北大)  
花川パート 中尾理沙さん(藤女子大)

私たちの活動は、花川南彩林公園で毎週土曜14時～17時の間、子どもたちと一緒に遊ぶこと。鬼ごっこやなわとび、木登り、サッカーなど、何をして遊ぶかは、その日の子どもたちの気分次第です。毎回、公園の端から端まで容赦なく走られますが(笑)、一緒に遊んでいると、自然にこちらの心も和んできます。現在、花川地区で活動しているメンバーは全員で13人。これからも地域の皆さんと一緒に続けていければと思っています。 ※春・夏・冬休みと雨の日はお休み

### こども・コムステーション・いしかり

私たちがつくる子どもの居場所は、自由な遊び場であると同時に、何か新しい体験のできる場であることを常に目指しています。そこで、この活動に付けた名前が「マナビーバ」。ここでは大人は、あくまで子どもに寄り添う形で、主役は子どもです。なお、私たちの活動は市民の皆さんの理解と協力があってはじめて成り立つもの。大人の皆さんもぜひ一緒に活動に参加して、新しいことにチャレンジしてみませんか？



理事長 藤原市子さん

問合せ ☎64-5640

### Voice

—それぞれの活動—

#### あそびばネット北海道



代表 岡村恵子さん

東京で子どもと「冒険遊び場」を体験し、外遊びの楽しさを実感！そこで北海道に引っ越してきて立ち上げたのが「あそびばネット北海道」で、遊び場づくりにかかわる道内の団体と協力し、日常的に子どもがのびのび外遊びできる環境づくりを目指し活動中です。石狩市とは「町のはらっぱ」からのご縁で、今、いしかり子ども総合支援会議のメンバーでもあります。冒険遊び場に興味のある方はぜひ！

問合せ ☒hokkaidouasobiba@gmail.com

#### プレーリーダー養成講座



修了生 矢野亮治さん

子どもと遊ぶのが好きという理由だけで受講しましたが、参加して本当に良かったです！子どもとのスキンシップのはかり方や企画の立て方など具体的に学べたほか、参加者同士でどんな活動をしているか情報交換もでき、大変勉強になりました。私は今、小学校で読み聞かせのボランティアや、自称「花川南彩林公園活動メンバー」、またの名を「THEセツルメントのおじさん」として活動しています。子どもには「りよんちゃん」と呼ばれているんですよ(笑)。

子どもは遊びを通して感性やコミュニケーション能力を磨くもの。しかし今、彼らを取り巻く社会環境は大きく変化し、その自由な遊び場は失われつつあります。そうした現実にも、まちでは大人たちが危機感を持って、さまざまに取り組んでいます。

**こ** んにちは。子育て支援課の山本です。今回は、子どもの居場所づくりについて、リポートしたいと思います！

まずは、「こども・コムステーションいしかり」の活動から。来年には設立10年目(前身の「石狩おやこ劇場」から30年!)を迎える同団体は、子どもたちに体験の場・自然の中で遊ぶ場を数多く企画してきました。

そのひとつ「マナビーバ」では、10代の子どもにターゲットをしぼった居場所づくりを行っていて、学校が休みの土曜に参加できるプログラム一例え「ひとりだちクッキング」「ベビィシッター養成講座」、夏休みには「自然体験活動 コムステサマーカーンアップ」などを用意。子どもたちにとって挑戦の場・仲間との交流の場になっています。なお、「マナビーバ」では「ティーンズカフェ」といって、土曜の午後、花川北コミセンの和室や同団体の事務所を開放し、子どもたちがふらっと立ち寄り自由なひとときが過ごせる場も提供します。

**続** いてご紹介するのは、「プレリーダー養成講座」について。

まず、それに先立って、市と石狩市子ども会育成連絡協議会が協働で「町のらっぱ」を実施しました。平成18〜21年度にかけ、主に小学校低学年を対象とした遊び場づくりの事業で、子どもの外遊びが減りつつある現状への危機感から取り組んだものです。

舞台となった緑苑台の空き地では、子どもたちが学年や学校を越えて交流し、ふだんはできないような工作や調理を体験。また、地域や子ども会の皆さんにはスタッフとして加わってもらい、「地域で子どもを育てよう」というコミュニケーションも生まれました。

こうした成果を受けて市では、「冒険遊び場(プレーパーク)」のような場所がもついろいろなところに、日常的であれば…と願うようになりました。そのためには、遊び場を企画・運営する「マンパワー」の発掘・養成が不可欠と判断。そこでスタートしたのが「プレリーダー養成講座」です。

プレリーダーとは、子どもと一緒に遊んだり、遊びを考えたりする人のこと。受講者には、プロの講師からプレリーダーの役割やイベントプランニングの方法などを実践的に学んでもらい、最終的にはイベントも企画してもらいました(左下写真参照)。

**と** ところで、受講者の中には、地元の一一般市民や子ども会の方々が、そして大学のサークルのメンバーもいました。「THEセツルメント」は、大学生のボランティアサークルで、その活動は毎週土曜の午後、子どもたちと一緒に遊ぶこと。彼らのつくる遊び場は、まさに私たちが目指す、日常的で、かつ「自由」なスタイルのもので、子どもの主体性を常に尊重しています。地域の皆さんと協力しながら活動を続ける彼らに、市も支援し、これからも一緒にまちを盛り上げていければと思います。

\* \* \*

**子** どもが子どもらしくくいられる環境を大人たちがつくり、守ろうという動きは、全国に広まっています。「冒険遊び場(プレーパーク)づくり」もその一つ。冒険遊び場は、火を使ったり、地



●どこでもプレーパーク in 緑苑台東地区町内会夏祭り  
8月7日(土)、「プレリーダー養成講座」の実践活動として開催。緑苑台東地区町内会とタイアップしたイベントで、受講生たちは、「うちわ手作りコーナー」を設けて参加しました。子どもの遊びを通して地域交流を元気にするきっかけ、子どもたちが地域への愛着を持つきっかけなどの「まちづくり」の視点も含めての取り組みでした。

面に穴を掘ったり、子どもがやってみたいと思うことを実現していく場所。失敗も含めたさまざまな体験が子どもの生きる力をはぐくみます。現代は、子どもの気持ちに寄り添って支える大人が必要な時代。その「支え手」に特別な資格や経験は必要ありません。子どもが好きで、その活動に興味や関心を持って、趣味や特技を生かして子どもと楽しめることが、条件のすべてです。

以上、石狩における子どもの居場所づくりについて、ご紹介しました。誰でも気軽に参加できるまちづくりの一環として、皆さんもぜひ参加してみませんか？